

タウンミーティング（中川地区）開催報告

- 日 時 令和元年11月8日（金）午後7時から
- 場 所 中川公民館2階多目的ホール
- 参加者 中川地区自治会長（関屋自治会長）、来見・石経・湯谷口・志川・寺尾・明徳自治会長、
婦人会長、民生児童委員中川支部長、中川・桜樹地区スポーツ推進委員、
健康づくり推進協議会会長、中川小学校PTA会長、丹原西中学校PTA会長、
中川小学校長、中川さくら保育園園長、桜遊会会長、中川駐在所所長
市長、経営戦略部長、危機管理監、丹原総合支所長、危機管理課長、地域防災アドバイザー、
シティプロモーション推進課長、同広聴係長、丹原総合支所総務課長、同総務調整係長
- 傍聴 9人
- 次 第
 - 1 開会
 - 2 挨拶（中川地区自治会長）
 - 3 挨拶（市長）
 - 4 市の主要事業について《市提案》
 - (1) 主要事業の説明（市長）
 - 5 参加者自己紹介
 - 6 地域課題「地域防災対策」について《市提案》
 - (1) 課題等の経緯等内容説明
 - (2) 「中川地区の防災対策」について意見交換
 - 7 その他
 - 8 まとめ・閉会
 - (1) まとめ（市長）
 - (2) 挨拶（中川地区自治会長）

○会議録

1 挨拶

【中川地区自治会長】

皆さんこんばんは。夜分にお集まりいただき感謝する。市長をはじめ多数の職員の皆さん、またご参加していただいている皆さんには、日頃から大変お世話になっている。今日のタウンミーティングについては、皆様方には、9月に予定ということで一度いろいろご意見を聞いたところだが、積極的なご意見を出していただいて今後の中川地区が益々よい地域になるようにご協力をお願いしたい。また、連合自治会と市とのつながり、そういったものも含めたタウンミーティングであり、最後までご協力いただくようお願い申し上げて開会のご挨拶とする。

【市長】

皆様こんばんは。遅い時間にもかかわらずお集まりいただき、タウンミーティングが開催できることを感謝する。また、当初9月5日に予定していたが、私共の都合で変更していただいたことをお詫び申し上げます。

さて、このタウンミーティングは6月22日からスタートし、約5ヶ月の間で28地区を回っている。皆様のお声の中から、来年度の予算に反映すべきは反映していこうとの思いもあり、また、地域づくりということでいうと、時間をかけて話し合わないといけない面もある。まずこういった話し合いの場があることが大事だと思うので手探りで進めている状態だが、今回限りではなく、次年度も開催していきたい。

今日は限られた時間だがこれをスタートとして位置づけ、これからもいろんな形で、行政だけではなく、中川地区のステークホルダーである皆様のご協力をいただきながら、中川に住んでよかったと思えるような地区にしていくために、まちづくりを進めていきたい。今日はよろしくようお願い申し上げます。

2 市の主要事業について《市提案》

(1) 主要事業の説明

【市長】（参照別紙資料（1））

3 地域課題「地域防災対策」について《市提案》

(1) 課題等の経緯等内容説明

【地域防災アドバイザー】（参照別紙資料（2）（3））

(2)「中川地区の防災対策」について意見交換

【参加者】

今説明されたことは新聞やテレビでよく目にする。ある程度、自分の命は自分で守るということを知っているが、健常者ではなく、自分の命を自分で守れない人も地域には居ると思う。そのような人をどうやって守っていくかということも対策として考えていかななくてはならないと思うが、どう考えているのか。

【危機管理課長】

西条市避難行動要支援者支援制度の、チラシを配布させていただいている。(別紙資料(4))この制度は、平成20年頃から取り組んでいる。玉津校区では全自治会の中で地域で元気な人が、実際に高齢者や障がいをお持ちの方、小さな子ども連れの方など、どの方に声掛けして助けるかなど具体的な避難行動要支援者の名簿の作成をしている。我々も説明にお伺いさせていただくので是非この制度を活用して地域で災害時に支援が必要な方を守っていただけるよう取り組んでいただきたい。この名簿については個人情報に関係もあるので、本人に同意をいただき、民生児童委員や消防団の方や消防署といったところに常駐で置いておき、いざとなった時に、避難行動が取りにくい方を助けるということを地域で認識したうえで取り組むことになっている。

【参加者】

中川地区には、課題の中にも挙げたが車いすで避難された方が使えるようなトイレがあまり見当たらない。B&Gは行ったことがないが、小学校、中学校、公民館については車いすで使用できるトイレがないように思うが市の方で対策は考えていただけるのか。

【危機管理課長】

現在、公民館の設備等については順次整備をおこなっている。要望等も踏まえて車いす用のトイレについても検討していきたいと考えている。障がい者や高齢者等については、どうしても福祉避難所というように早めに避難をしていただきたい。この辺りだと丹原福祉センター、保健センターなどで、トイレやベッドなどが準備できるようなところへ早めに避難をしておいてもらうというのも一つの方法である。

【市長】

小学校や都市公園などに多機能トイレなどを整備しているが中川校区はどうなっているか。

予算の関係もあるため一挙には難しいが、小学校のトイレに障がい者も利用できる多機能トイレの整備をすることも考えている。

また、洋室のトイレが4室あるトレーラートイレというものがある。トレーラートイレのチームをつくって大規模災害の時には、例えば愛媛が災害になった場合は全国から愛媛に集結するといったことも考えられる。これだけ多発化激甚化している災害に対して、生活の中のインフラの大切な部分であり、もちろん財源が要ることはあるが、国の補助も手厚くなってきており、行政としてやっていかななくてはならないこと、皆とチームをつくって対応していくこと、二重構造でやっていきたいと思っている。一挙には進まないことをご理解いただきながら進めていきたい。

【参加者】

この地域にはいろいろと悲惨な過去があり、昭和49年9月1日、一家4人が避難の途中で川に流されて亡くなった。昭和51年には関屋川や西山川、内川が氾濫して中川駐在所が流され、丹原の町一帯が水に浸かった過去もあったが、何十年か経過すると、この辺りは石鎚山に守られているから大丈夫とか標高も60から70メートルあるから津波の心配もないとか、そういう気持ちが心のどこかにありはしないか。しかし先般のような東北や関東の災害もあり、思いもよらないことが起こるのが今日なのでその部分の意識形成というか、この辺りでも有り得るという意識付けをしていくことが必要であり、これからの地域防災を考えるうえで課題ではないか。

【市長】

非常に大切なことである。関屋川の氾濫など地域の心配事がある。小学校の12歳教育の中では既に地域の防災について学習している。当初の子どもたちがすでに20数歳になっている。意識づけというのは小学校の時からできているが、防災カフェの関係など、点でしていることを線にして、面にしていくのは地域の防災意識を高めていくのは今しかないと思う。これだけ災害が多発化して飛び込んでくる映像はショッキングなものがある。やはり地域のことは皆様が一番よく知っているのだから、一歩踏み出し、やろうという気持ちを皆で醸成していただきたい。我々もしっかり、一緒に汗を流していくので遠慮なしに使ってもらったと思う。今やろうということをお願いしたい。

【地域防災アドバイザー】

子どもたちの教育から繋がっていくものが非常に大きくて、「釜石の奇跡」と東北の震災の時に言われ

たが、子どもたちが逃げたから周りの大人もみんなが逃げたというようなこともあった。12歳教育という形で純粋な子どもたちといろいろな形で我々も関わっている。それを基にして、本当に小さな形でも構わないので、意識を高めていきたい。一自治会の愛護班だけの説明会でも行っている。いろいろな形で呼んでいただき、疑問に思っていることを事前にお聞かせいただければそれに合わせた説明もする。是非とも呼んでいただきたい。

【参加者】

12歳教育については、平成29年度の第2回防災サミットは市総合文化会館に市内の6年生が集まって開かれたが、昨年度から学習活動が中学校区毎になっている。今は防災活動は、関係機関の方々をお願いして小学校6年生と中学校2年生の児童生徒だけで取り組んでいるが、できれば地域の皆さんも一緒になって、巻き込むような活動をできればと思う。小学校の防災教育担当者へ、中学校とも相談してそういう形がとれることにもしていきたい。

【経営戦略部長】

中川の話ではないが、明後日開催予定の飯岡小学校区の文化祭で、地区の防災士の女性が台風19号を受けて、地元として何ができるかを考えて、飯岡にある川のハザードマップを大きく印刷し、文化祭会場で張りだし、そこに自分の家を付けてみるということをやるといふ。行動に起こすところから始まるのではないか。

【市長】

恐らく、丹原の人は行政がやってくれるという、行政に対する期待が強いのではないと思う。市民の皆様と話をしていると、何かあったら助けてくれるだろうという感覚が非常に強く、保守的である。丹原の人は少し控えめであるが「ワシがやる」というような、誰かが一歩、足を踏み出すことが必要になってきている。災害被害が広域になればなるほど、皆様への手助け、支援が遅れてくる。そういったときに、最初に動いていただかないといけないのは地域の皆様である。少し一歩前へ出るという気持ちを、切にお願いしたい。

【参加者】

防災倉庫が各所にあると思うが、どこの防災倉庫も地面に置いている。実際に災害が起こった時に防災倉庫は利用できるのか。洪水などがあった時に利用できるのか。もう少し高い場所に置くべきで、いざという時に使える場所にあるとは思えない。この中川でも雨で一発で沈んでしまうのではないのか。もう少し防災倉庫の置く場所の選定をしていると、いざという時に使えると思う。実際に大洲の方でも水に浸かって発電機がダメになったということもある。使い勝手は悪いかもかもしれないが、低いところよりは高いところ、いざという時には発電機等がものすごく必要になってくる。今置いている地べたよりは何センチでも構わないが高いところに置くのがよいと思う。

それと、B&Gのところが高い。一昨年の台風の時に、3時間通行止めにして迂回させていた。B&Gが避難所にもなっているが、避難所としては全く利用できないと思う。避難場所の選定を皆さんの知恵を絞って変更することも大切なことだと思う。

【市長】

おっしゃるとおりである。私をトップに部長級の庁議というものがある。その中で、台風19号を見て、やっぱり総点検しよう。今言われたことも含めて、すべて見直して、例えば、そこにあってもいざという時に使えないところはないか、そこが避難所になっていないか。こういったことを全部頭出ししていこうと話している。すぐにできることではないが、いざという時に何が支障になるかということ各部署で洗い出すことはとにかく早く指示している。それを直していくには予算もいるかもしれないし、皆様のご協力が必要かもしれない。すぐにできればいいが、できるところからスピードを上げてやっていきたい。

防災倉庫を最初に設置するときに浸水時の想定等はしないのか。

【危機管理課長】

施設管理者が管理しやすい場所にといいことで、位置についてはそれぞれの施設管理者をお願いをして設置した。どうしても管理上、管理しやすいところになっている。

【市長】

そうすると、地域の人が決めたということか。

【危機管理課長】

各施設、小学校や公民館などについては施設の管理者である公民館長や学校の先生といった方の管理がしやすい場所へ設置している。

市から各自治会等に渡している防災の資機材等については、それぞれの自治会で管理がしやすいところに置いているのではないかとと思われる。

【市長】

管理と、いざという時の活用というところで、それぞれの地域の中で今の位置でいいのかどうか、見直し、地域の方についてはお願いをしないとイケない。公有施設については管理者でということであるため、まず出来ることだと思う。この位置で本当にいいのかどうか、確認をする作業に入らせていただく。地域の方についても、各地域で確認してほしい。

【参加者】

中川の自主防災組織を一括してはどうかという案が出て、それぞれの地区の自主防災組織の役員名簿を公民館へ提出して、それから始めようかという話になった。なぜかというと、中川地区であれば自治会長がまず指揮を執ると思うが、高齢化で若い者がおらず、地区同士、お隣同士で助け合いをしていかないとイケないということで、今現在、だいたいまとめが出来ている。早急に進めていかなければと思うし、避難所についても、地区地区でというよりは、中川全体、そういった防災組織の中から意見が出たほうがより強く市の方へもアピールができるのではないかとということで今検討中である。

もう一点、人命が一番大事だとは思いますが、山火事の問題について、今年度から森林環境税が、恐らく西条市全体で3千万くらい降りてくるのではないかとという予測であり、その使い道として考えていただきたいのが、山林火災を防ぐための林道の整備である。人命には関係ないというが、西条市にとって、山は財産であり、その辺りも市の方で考えていただきたい。関屋地区でも森林の収入が今回は5年間で500万ほどあったので皆に分けれるが、その500万の内の一割は市の収入として入っている。関屋の部落林、県有林そういったもので、かなりの金額が200万、300万といわない金額が市の方へ入っていると思う。その辺りのお金や、森林環境税を利用して見直しをしていただきたい。先般、森林組合へ、そのようなお願いをした。いしづち森林組合は、新居浜と一緒にだが、新居浜市の方へもお願いしている。税金の有効利用をお願いしたい。少し話はズレたが、これも災害と認識している。

【市長】

防災の組織としては今、防災士の皆様が組織化をしていく自主防災組織協議会というものが西条市にある。中川地区の中で組織化をするということだが、それは今までできていたのか。

【危機管理課長】

単位の自主防災組織で西条市は作っていたので、今進めているのが先ほども説明があった地区防災計画を校区で作ろうと。そのためにはやはり一つにまとまっていけないので、西条市内では飯岡校区と大町校区、橘校区でそれぞれの自主防災の一つの単位、校区で一つの単位として取り組みをやっている。地域で小さな集落ではできないことを大きいところで賄っていこうという形なので是非、我々も説明会であるとか色々なノウハウについても協力させていただく。

【市長】

ご案内かと思うが、松山市に次いで西条市が防災士の数は多いと思っている。出勤しやすいようにということ、そしてせつかく防災意識が芽生えた12歳教育に高校生にも入ってきてもらえないか、中学生にもお手伝いできないかと枠を広げていきたい。高齢になられて自治会をやめていく方もでてくるので、しっかり把握しながら組織化というものは大切である。

山火事の問題で、森林環境税が、約3千万弱だったかと思うが、入ってくる。しばらくは基金として積み立てていきたいと考えている。それ以降は、例えば伐採などで水の涵養を良くすることも含めて、使途についてはこれから議論する。

林道は、1メートルつくるのに大変なお金がかかる。当初の目標まではコストがかかるが、木を切り出すためには必要な林道である。なかなか進まないが、使途については皆様に相談させていただきたい。

【中川公民館主事】

まだまだ議論は尽きないが、このあたりで終了とさせていただく。本日の内容についてもっと詳しく知りたい、地域の皆で話したい等があれば、市の方へ後日お問い合わせいただきたい。災害対策は命に係わるとても重要なものであり、中川地区でも各自治会の自主防災組織をまとめ、一体となって避難所運営ができるようにと考えているところである。今日の話し合いを基に一つずつより良い対策を積み重ねていきたい。

4 閉会

【中川地区自治会長】

本日は、お忙しい中、市長や地域の皆さんにご出席いただき、中川地区に関する防災や地域内のことについて、市長にお伝えし、また、お互いも知ることができた。更に中川地区全体で災害に備えるため、話し合いを続けていきたい。

皆さんも各団体に帰られて、話し合いをしていただき、今後も市と協力しながら、住民同士が支え合える、災害に強い地域づくりを目指し、地域自体を盛り上げていけたらと思う。

また、行政の皆さんには、活動に際しいろいろと相談や支援をお願いする。皆様、本日は本当に感謝する。

(閉会)

<タウンミーティングの様子>

